

文系向けの「海洋の科学」: 大学の正規の共通教育、公開講座、高大連携講座、修学旅行生向け体験授業の実践
'Ocean Science' class as a liberal arts education programme in the University of the Ryukyus

松本 剛^{1*}

Takeshi Matsumoto^{1*}

¹ 琉球大学理学部

¹ Faculty of Science, University of the Ryukyus

亜熱帯域の海に囲まれた島から成る沖縄県に位置する琉球大学における地学教育は、その地の利を活かして「海」に重点を置いたものとなっている。地学を専攻する学生に対する専門教育はもちろんのこと、地学教員が主として文系学生を対象として提供する共通教育自然系科目についても、沖縄・琉球の地理的特徴を活かしたものが多い。とりわけ、琉球大学は国立大学で2校のみの観光関連学部「観光産業科学部」を擁し、将来沖縄に限らず広く世界で観光関連事業で活躍することが可能な人材を育成する役割を担っているが、海は沖縄の重要な観光資源であり、沖縄での観光教育としては、海と地球に関する正しい理解が求められる。

沖縄県に住む我々「海洋民族」にとって、海は身近で生活に密着した存在である。我々は海からさまざまな恩恵を受けているとともに、これを積極的に利用することによって、我々の豊かな暮らしが成り立っている。しかしその反面、海は災害を引き起こすなど、ひとたび間違えれば、「荒々しい」「怖い」存在でもある。発表者は、主として初年次文系学生を対象とした科目「海洋の科学」を担当し、このような海のいろいろな側面について、海で起こっている自然現象を中心とし、海と人類の関わり合いなども含めて一通り学べる内容を紹介している。対象学生の中には、高校で地学を履修した者も居るが、現在の高校のカリキュラムで海洋を扱う部分は極めて少なく、沖縄に住む多くの学生にとって、身近過ぎる海への理解や知識は、必ずしも充分とは言えない。そこで、この講義では、海に関する身近な話題を取り上げつつも、海の意外な面から話を始め、数式を一切使わずに、海 of 自然現象の理解が得られるような内容となっている。いくつかの例を挙げると、「海水を汲み出さなくとも見えてくる、深海底の素顔」「深海底のオアシスが沖縄にもあった」「海面はのっぺらぼうではない」「海にも道がある」など。本講演では、これらのうちの幾つかのトピックスを紹介し、教養教育としての地学教育について、来場者とのアイデア交換を行いたい。

この講義は夜間主学生向けにも昼間主学生と同じ内容のものを提供している。また、昼夜クラスともに公開授業としても開放されており、一般社会人や高校生も手続きを経て受講可能となっている。また近年、沖縄は修学旅行地として人気があり、毎年多くの高校生が修学旅行で沖縄を訪れるが、「ひめゆりの塔」などの南部戦跡を訪れる平和教育の他、最近では旅行先大学での体験入学・体験授業などのプログラムも組み込まれた修学旅行プランもある。2012年10月には、千葉県・茨城県の県立高校の修学旅行生を受入れ、海洋に関する体験授業と学内施設見学のコースを実施した。本講演ではその結果についても併せて紹介する。